

中国大失速・日本大激動

世界経済から見た日本の行方 宮崎 正弘 2016年2月28日発行

チャイナ・ウォッチャー世界経済分析では国際エコノミストとして活躍

{ 中国の凄まじき経済惨状 }

石炭産業13000社倒産・400万人失業・操業中の企業は9割赤字、鉄鋼業界はほぼ全社赤字・業界全体で60兆円の赤字と信じられない数字、銅鋳山業900社のうち半分赤字、セメントは34~47%減産~建設ブームが去った

{ 経済のルール主役交代 }

15年11月30日中国人民元のSDR入りでこの通貨の利便性と国際化がどうかという大問題を抱えることになったAIIIBボンドの起債は格付けを取らないでスタートした、初年度は20億ドル。

中国金融市場の自由化はSDRの条件を満たすには

- ② 金利の自由化
- ② 金融市場の整備
- ③ 資本取引の自由化
- ④ 為替の変動相場制 と長い道のりが待っている。

中国の負債がGDPの290%（16年1月24日ファイナンシャルタイムズ）のうち大半が国内債務であり人民元の大暴落は考えにくい。

{ 中国経済の破たんは秒読み }

直撃が予想される株価の大暴落、中国の企業側が発表した統計では成長していれば伸びるはずの電力消費や貨物輸送量がともにマイナスしていることから偽装は明らか、こうした事情を知り外国企業や個人投資家がこぞって中国市場から資金を引き揚げている、今は為替管理という強硬策で危機は先送りされているので短期の楽観・中期的には悲観的となり、長期展望では絶望が広がる。

腐敗撲滅をうたった「反腐敗運動」が続き相次ぐ粛清で官僚は戦々恐々、行政はマヒし経済は沈滞の一途、又実権を掌握したといわれる人民解放軍も面従腹背で不満は爆発寸前、むしろクーデタの可能性が高まっているとみるべき。

中国の国富ファンドはサウジやクエートの国府ファンドに迫る3000億ドル規模の資金が投資されていると思いきや、その中の5兆円の日本株は静かに売却されていた。

C I Aの調査では中国から不正に流失した外貨が3兆800億ドルとされる15年6月末の外貨準備3兆6500億ドルもほとんど底をついていることに。

対外資産は不良債権が大半だ、5兆ドルあるとされているがその多くは不良債権だ、インドネシアでは日本から横取りした高速鉄道工事も赤字覚悟で最後までやり遂げるか16年1月末まだ正式に契約されていない、以下スリランカジンバブエ、スーダン、ブラジルなど世界中で中国が展開した世紀のプロジェクトが頓挫する惨状、豪・カナダ・ニュージーランドなど鉄鉱石鉱区を買収・開発していたが鉄鋼不振で開発を中断、このあおりで豪ドル・カナダドル・NZドルが下落、ブラジル・南ア・アルゼンチンもしかり、15年3月末の対外債務残高は直接投資が2兆7515億ドル、証券が9676億ドル計3兆7191億ドル外貨準備が3兆6500億ドル、とすれば差し引きマイナス691億ドルではないか。

日本株は米国・マレーシア等と比較すると対中輸出依存度は低いが中国とのビジネスが深いコマツ・JFE・資生堂・ダイキン・神戸製鋼・ファナック・京セラ・日本精工などは犠牲となる、もつとも深刻な影響を受けるのは伊藤忠商事で中国国務院直営CITICへの出資が1兆2千億円ありチャイナリスク。

中国の外貨準備が底をつき国内の在庫処分と失業の輸出がA I I B・BRICS・一帯一路という三点セットの狙い。

{ 米国に広がる中国崩壊論 }

南シナ海の岩礁を埋め立てて滑走路などの軍事施設を作っていることに米国が抗議しても中国の内政問題だアメリカは介入すると強固姿勢を崩さぬ姿勢にオバマ大統領の中国に対する態度は明らかすぎるほど冷淡になった。

親中ハト派のマイケル・ビルズベリーが中国に騙されたと悔恨の書を出した、同氏は「中国の軍事拡張は平和を目指すゆえになされる」と信じ込ませることに成功、一役買ったのがキッシンジャー、ブレジンスキー、スコウクラフト、デビット・シャンボー、エズラ・ボーゲルらのパンダハガーの親中派だった。

たちが悪いのは経済畑の論客で「中国経済に確証もない崩壊論を言っている人たちは頭がおかしい」などという言い訳を展開している「騙したものが勝つ！」というのは中国古来の諺、それを実践しただけでビルズベリー他の米国人も気が付くのが遅すぎた、だが日本の左翼知識人等と異なり気が付くと悔恨するところは正直である。

デビット・シャンボー（ジョージワシントン大学教授・ブルッキングス研究所シニアフェロー）は北京で1年暮らした経験もあり中国人学者とも知り合いが多いが反中国の急先鋒となった、理由は2014年北京で開かれた学会で中国人学者のそれまでの自由闊達な態度が消え

決まりきったことしか言わず顔面は凍り付いていた場面にあつてからだ、この変化は共産党内部で文革のような権力闘争と肅清の嵐の渦中にもがく知識人のひ弱さが蔓延、汚職高官子弟らの海外逃亡の奔流を目撃し考えを改めた。

{ アメリカ大統領選を10倍楽しくしたドナルド・トランプ }

放言・罵倒・暴言を繰り返しながらトランプが庶民の支持を集めるのは移民問題と対中国強固姿勢、1980年レーガン選挙の時も最初は何かの冗談、二流の俳優上がりに何ができるかと・・・無能なカーター政権にアメリカ人は苦痛を味わった、オバマはカーターと並ぶ超無能、ヒラリーはタカ派ぶっているがお里が知れておりオバマと同一系列とみられがちで雪崩を打って「トランプ」でいいじゃないかということになる。

「なぜヒラリークリントンを大統領にしないのか」佐藤 則男 講談社+α新書

{ カナダ油田開発に中国は350億ドル投じたが }

カナダにも反中国感情が急拡大している、中国からファンド・株式投資、石油企業がどっとカナダに押し寄せた、実に資源企業の70%が中国によって子会社されたか筆頭株主となった。

中国はベネズエラ、南スーダン、ナイジェリア、アンゴラそして中東諸国にも投資を展開した、しかし中国の思惑は全部外れた、原油価格暴落に加えカナダの国内政治は安全保障をめぐる外国企業の活動を制限、肝心の開発工事は遅れ気が付けばコストが合わない悲惨な状態に陥っていた、今や操業維持か撤退するか中国にとって瀬戸際が近づいている。

{ 難民問題はEU解体への道か }

欧州はアフリカと中東からの難民を抱えて移民排斥の声が次第に強くなり「どこまでも面倒を見る」と主張したメルケル独首相の人気は突然下降し始めた、この現実にはEUという歴史的な社会実験がガラガラと崩れ始めた未曾有の危機、テロと難民、財政と防衛、そしてナショナリズムの復活。

{ フランスは非常事態を宣言 }

オランド仏大統領は右旋回、移民排斥色の濃い政策に転換、IS空爆に参加、空母をシリア沖に派遣。

「ヨーロッパから民主主義が消える」川口マーン恵美 PHP新書

{ 忘れてならないことはロシア }

20年前までソ連のもとでNATOに敵対していた国々がすべて P 3

宗旨替えしEUがヨーロッパの脇腹にナイフを突きつけた！も同然だった。

そしてこれがEUとロシアの間に禍根を残しウクライナの問題にも～元はといえばここに原因がある。

{ 金に目がくらんだのかと鋭い詰問が起きた英国 }

中国の金を当てにする英国は議会での演説を認め、英王室は最高級のおもてなしで習元首を遇し、さすがの英国国民もあきれ顔、ところがバッキンガム宮殿の周りは歓迎の旗より抗議の人波が多く総額7兆円の投資の約束も庶民にはさっぱり、産業界は疑いの目で見、特に鉄鋼業界の反中国感情は露骨、英マスコミも冷たかった。

{ 世界の親日国家 }

ポーランドも日本大好き、まず台湾、トルコが真っ先、次いでタイ、ミャンマー、インド、スリランカ。

日露戦争で捕虜になったロシア兵を「人は皆平等・彼らも愛国者として日本は親切・低調にもてなした」松山の収容所にいたロシア兵の大半がポーランド人で彼らは日本が戦争に勝ったことをわがことのように喜んだ。

「世界はこれほど日本が好き」河添 恵子 祥伝社

ポーランド人は東洋の島国に生きる人々に本物の人間を発見、それが根源となって日本とポーランドの友好の歴史が開始された。

{ 中国よ！さようなら }

ケンタッキーとピザハットが中国から撤退する、公式統計だけで2015年1年間で5000億ドル以上が中国からサヨウナラ。

中国経済に見切りをつけた欧米の機関投資家、世界NO1投機家のジョージ・ソロスはアリババ、百度など保有した中国株を米国市場で合計3百万株売却、バンカメ・メリルリンチ1社だけでも7兆2千億円売却、大半をインドへの株式投資にまわしている。

中国には国有企業が16万社あるが最後まで生き残れ中国共産党がメンツにかけても守る企業は最悪の場合130社の見方もある。

石平（講談社）「暴走を始めた中国2億6千万人の現代流民」

2015年の公式統計で分譲マンションなどの売れ残りは1億1900万戸輪転機は際限なく回転し中央銀行は札束を増刷する、通貨供給量は1978年859億元それから30年後の2009年には実に60兆円でなんと708倍、ちなみに同期のGDPは92倍の計算になる。

政治学者の藤井厳喜「紛争輸出港アメリカの大罪」祥伝社新書の中で
米国は先端技術と農業で持っている国、外交となると素人のごとし、

米国は紛争輸出国であり米国外交の特質とは

① 真の敵と味方を見誤る

② 自らの誤った判断で自らの強敵を作り上げてしまう

ルーズベルトは本当の敵ソ連に味方して膨大な援助を与え、中国共産党を助け、究極的にはロシアもシナも失った、心の友人である日本に戦争を仕掛けるという世紀の過ちを犯した。

ニクソンは中国を超大国にしてしまった、中国は面従腹背で米国の力を利用し遂にそのライバルにまでなりおおせた。

キッシンジャーの負け惜しみは「中国人は戦略的思考に長けている」と寝言を述べている、藤井教授は「詐欺師に騙された人間が～あのペテン師は実に嘘が旨かった」と告白しているに等しいと。